

鶴見岳・伽藍岳の火山活動解説資料（平成 27 年 2 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

○ 2 月の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1～3）

鶴見岳監視カメラ（大分県）による観測では、噴気は認められませんでした。

23 日に実施した現地調査では、鶴見岳地獄谷赤池噴気孔の噴気や、赤外熱映像装置¹⁾による熱異常域の分布に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 4）

火山性地震は 4 回（1 月：6 回）発生し、そのうち 19、20 日に B 型地震²⁾ がそれぞれ 1 回発生しました。B 型地震の発生は 2014 年 5 月 1 日以来です。

火山性微動は観測されませんでした（1 月：なし）。

・地殻変動の状況（図 5、図 6）

GNSS³⁾ 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 鶴見岳・伽藍岳 鶴見岳・伽藍岳の状況
（2 月 14 日、鶴見岳監視カメラ（大分県）による）

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 27 年 3 月分）は平成 27 年 4 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、独立行政法人防災科学技術研究所、大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『基盤地図情報』『基盤地図情報（数値標高モデル）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

- 1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 2) 火山性地震のうち、相が不明瞭で、比較的周期が長く、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震で、火道内のガスの移動やマグマの発泡などにより発生すると考えられています。
- 3) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

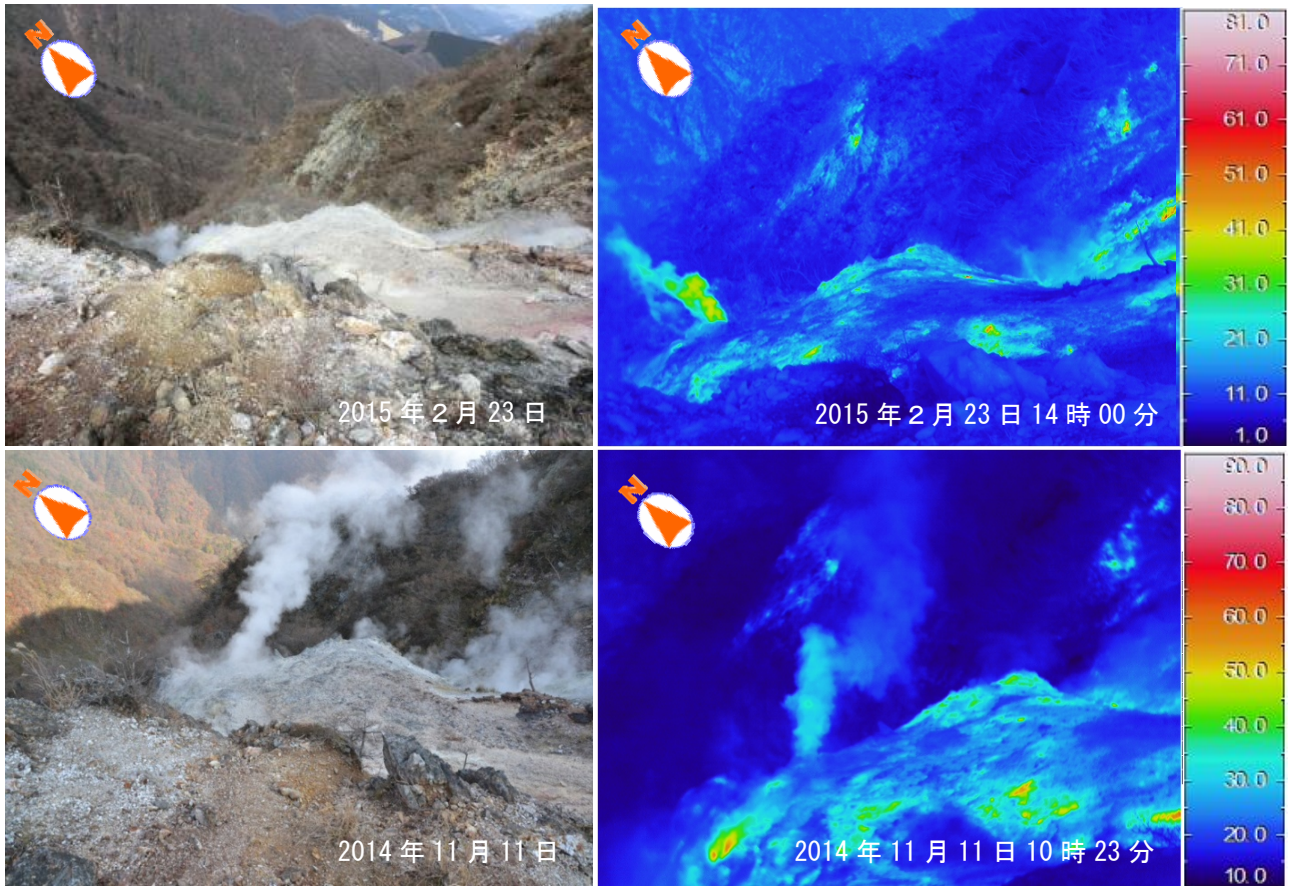


図 2 鶴見岳・伽藍岳 鶴見岳地獄谷赤池噴気孔の状況

熱異常域の分布に特段の変化は認められませんでした。

左が可視、右が地表面温度分布

地熱等の影響を受けていない領域の表面温度を算出し、基準温度として表示しています。



図 3 鶴見岳・伽藍岳 図 2 の撮影位置と方向

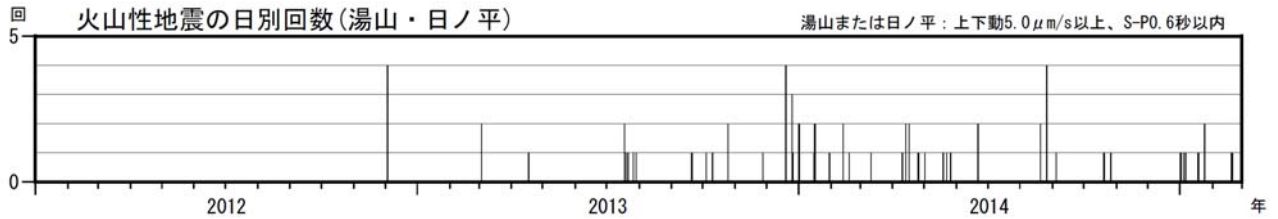


図4 鶴見岳・伽藍岳 火山性地震の日別回数（2012年1月～2015年2月）

< 2月の状況 >

火山性地震は4回（1月：6回）発生し、そのうち19、20日にB型地震がそれぞれ1回発生しました。B型地震の発生は2014年5月1日以来です。

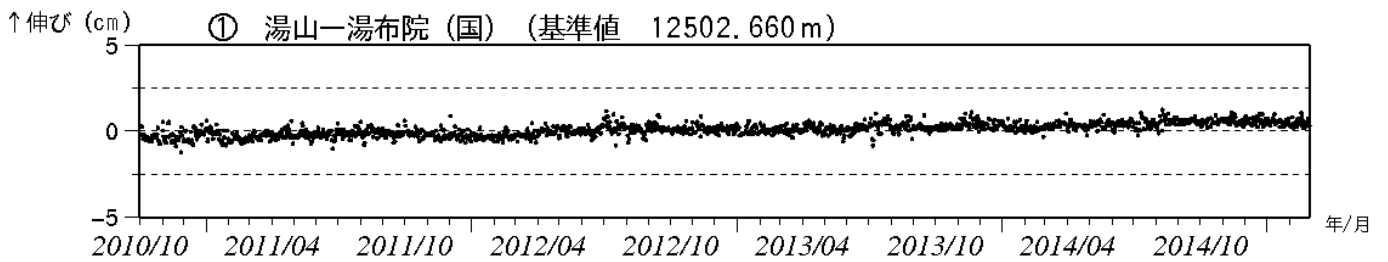


図5 鶴見岳・伽藍岳 GNSS連続観測による基線長変化（2010年10月～2015年2月）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図6の①に対応しています。

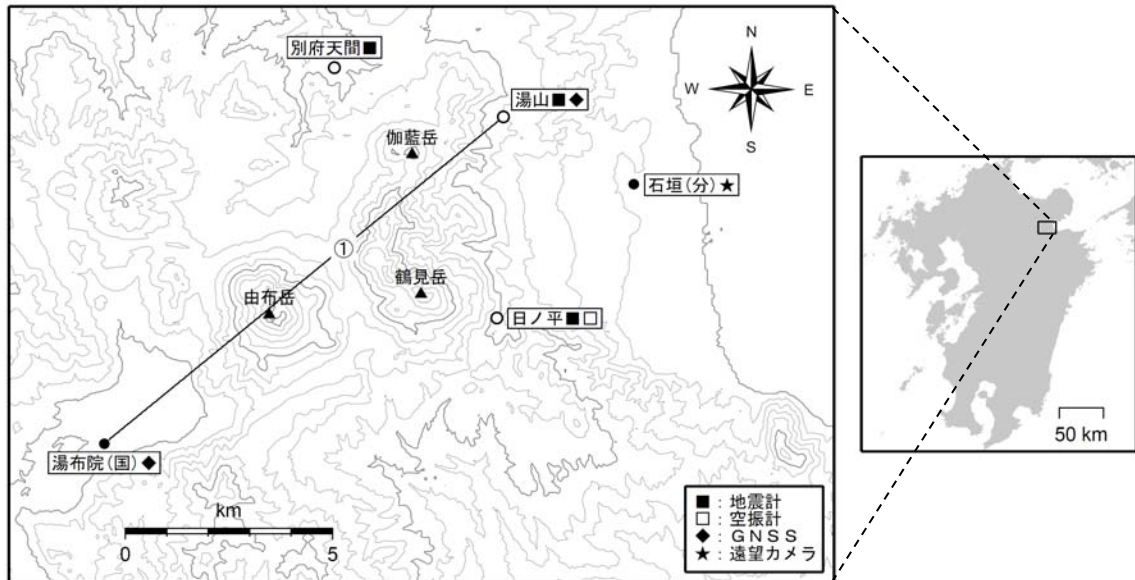


図6 鶴見岳・伽藍岳 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院、（分）：大分県

遠望観測点「石垣（分）」は鶴見岳監視カメラ（大分県）を示しています。